

運転装置, 室内装備の使い方

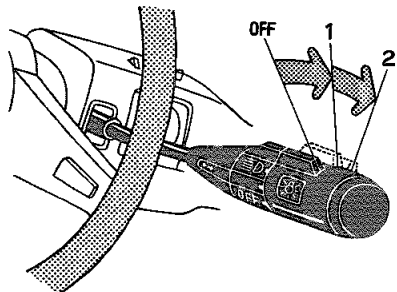
スイッチの使い方	18
ライト・スイッチ	18
方向指示レバー	18
フロント・ワイパー/ウォッシャー・スイッチ	19
前照灯クリーナー	19
リヤ・ワイパー/ウォッシャー・スイッチ	20
リヤ・ウインドウ・ガラス曇り取りスイッチ	20
計器照度調整ツマミ	21
駐車灯スイッチ	21
非常点滅灯スイッチ	22
運転装置の操作	22
エンジン・スイッチ	22
エンジン始動	23
エンジン・ヒーター	25
チェンジ・レバー	26
オーバードライブ・スイッチ	28
駐車ブレーキ・レバー	29
チルト・ステアリング(上下調整式ハンドル)の調整	30
ミラー調整	30
オート・ドライブ(自動定速走行装置)	31
シートの調整	33
フロント・シートの位置調整	33
シート上下位置調整装置	34
ランバー・サポート(腰部当たり調整)	35
ヘッド・レストの位置調整	35
中央アーム・レスト(ひじかけ)	36
リヤ・シート	36

シート・ベルトの装着	38
フロント・シート・ベルト	39
リヤ・シート・ベルト	40
室内装備の使い方	42
時計	42
エンジン・キー照明	43
室内灯とドアの関係	44
フロント・スポット・ライト	44
リヤ・スポット・ライト	44
バック・ドア灯	44
シガレット・ライター	45
灰皿	45
グローブ・ボックス(小物入れ)	45
化粧ミラー付きサン・バイザー(日よけ)	46
フタ付きコンソール・ボックス(小物入れ)	46
荷物固定ベルト	46
クォーター・トリム・ボックス(小物入れ)	46
クルーズ・コンピューター(走行情報表示装置)	47
車体各部の開閉	55
フロント・ドア	55
リヤ・ドア	56
電磁式ドア施錠装置	56
チャイルド・プロテクター(安全施錠装置)	56
電動ウインドウ	57
ボンネット	58
燃料タンク・キャップ	58
トランク	59
バック・ドア	60
サン・ルーフ	61



スイッチの 使い方

■ライト・スイッチ

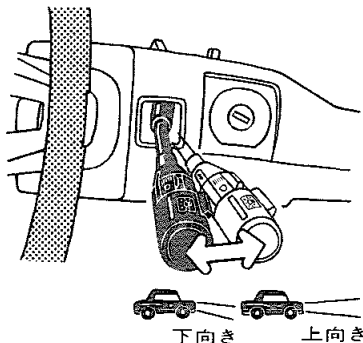


エンジン・スイッチに関係なく、ランプが点灯します。

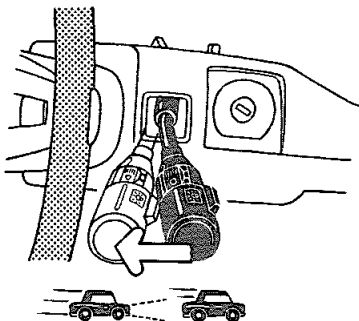
ツマミを回すと①、②の位置で、次の○印のランプが点灯します。

灯 火 名	①	②
前 照 灯		○
車 幅 灯, 尾 灯	○	○
番 号 灯	○	○
計 器 照 明 灯	○	○

〈前照灯の上下切り替え〉

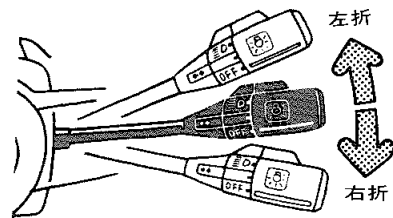


〈追い越し合図灯〉

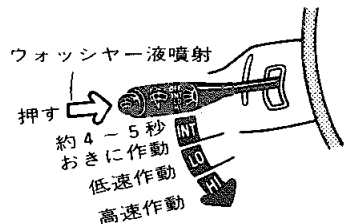


レバーを手前に引くと前照灯が点灯し手をはなすと、もとの位置にもどります。高速道路などで先行車を追い越すときなどの合図に使用します。

■方向指示レバー



■フロント・ワイパー／ウォッシャー・スイッチ



スタンダード車は、LOとHIの2段階り替えです。

▶ウォッシャー連動式ワイパー

スタンダード車を除く

ウォッシャー・スイッチを0.5秒以上押すとウォッシャー液を噴射し、約1秒後にワイパーが2～3回作動します。

★ウォッシャー・タンクがカラのときは、ウォッシャー・スイッチを使用しないでください。ポンプを痛めることがあります。

★からぶきはガラスを傷つけることがあります。必ず、ウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。

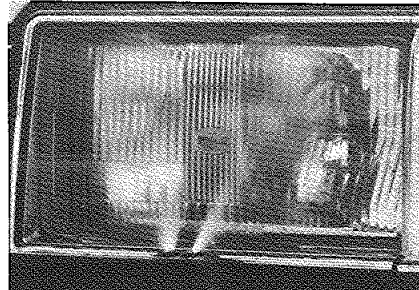
★寒冷時は、ワイパーを作動させる前に、ワイパー・ゴムがガラスに張りついていないことを点検してください。

凍結したまま作動させるとモーターが故障することがあります。

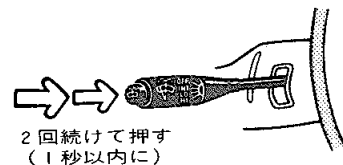


寒冷時にウォッシャー液を使用するときはガラスに放射された液が凍結し、視界不良を起こすことがありますので先にウインドウ・ガラスを暖めてください。

■前照灯クリーナー *

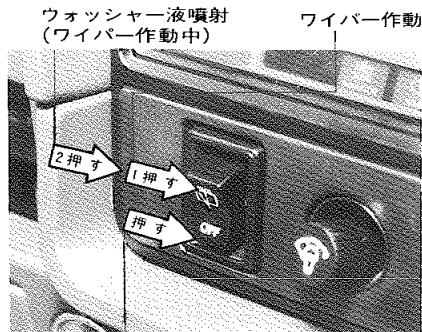


エンジン・スイッチがONで、ライト・スイッチをONにしたとき、フロント・ウォッシャー・スイッチを2回続けて（1秒以内に）押すとウォッシャー液が約0.5秒噴射されます。





*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

■ リヤ・ワイパー／ウォッシャー・スイッチ *



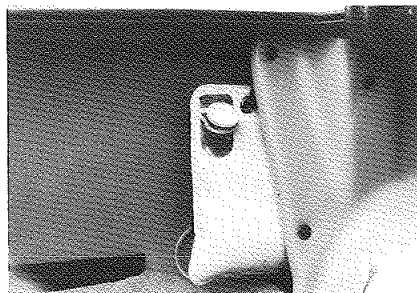
ウォッシャー液噴射
(ワイパー停止中)

エンジン・スイッチがONのとき使えます。

1. スイッチのOFF側を押すと、ウォッシャー液が噴射します。
2. スイッチの  側を押すとワイパーが作動します。ワイパー作動中にウォッシャー液を噴射させるには、  側をさらに押します。

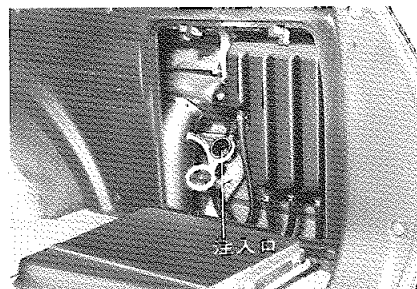
▶ リヤ・ウォッシャー・タンク

セダン/ハードトップ車



トランク左側に取り付けてあります。

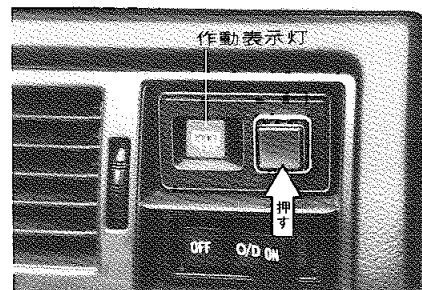
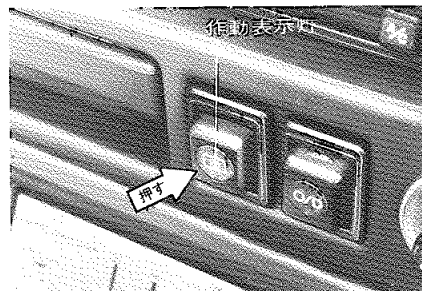
ワゴン/バン車



荷台右側に取り付けてあります。

■ リヤ・ウインドウ・ガラス曇り取りスイッチ

スタンダード車を除く



リヤ・ウインドウ・ガラスが曇ったとき、ガラスの表面を暖めて、曇りを取ります。

スイッチを押すとONになり、作動表示灯が点灯し作動していることを示します。

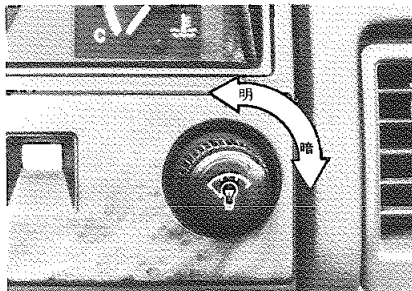
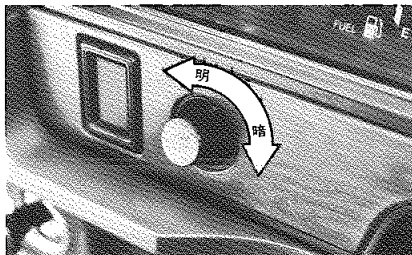
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

☆リヤ・ウインドウ・ガラスの曇りが消えたら、スイッチは必ず切りましょう。曇り取り装置は消費電力が大きいので、スイッチを入れたままにしておくと、バッテリーあがりの原因になります。

☆曇り取り以外には、使用しないでください。雨水の乾燥や雪などを溶かすことはできません。

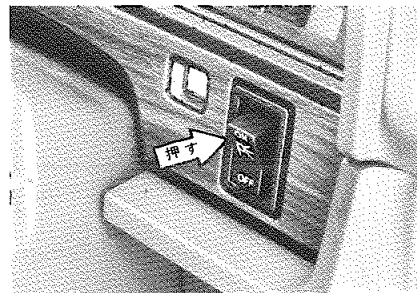
☆熱線入りガラスの清掃は、ぬらした布で熱線にそって、軽くふいてください。ガラス・クリーナーなどは使用しないでください。

■計器照度調整ツマミ *



ヒーター・コントロール、計器などの光度を3段階に調整します。ツマミを右に回すと暗くなり、左に回すと明るくなります。

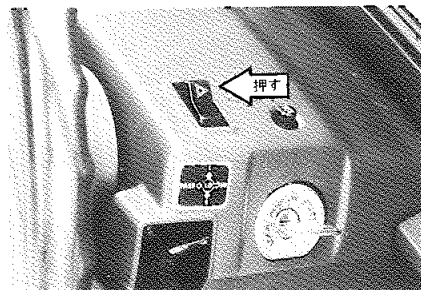
■駐車灯スイッチ



路上駐車時に使用します。スイッチをONにすると、前後左右の駐車灯が点灯します。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

■非常点滅灯スイッチ

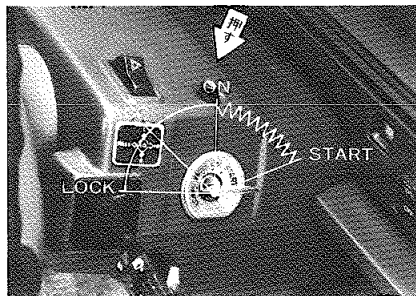


故障などで、やむをえず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用します。スイッチを押すと、すべての方向指示灯が点滅します。

走行中、異常がないのに使用すると他車の誤解をまねき危険です。

運転装置の 操作

■エンジン・スイッチ



LOCK.....キーを抜き差しできる位置。キーを抜くと、ハンドルがロックされます。

ACC.....エンジン停止時、ラジオ、ステレオの聞ける位置。およびシガレット・ライターの使用できる位置。

ON.....エンジン回転中の位置。

ディーゼル車は始動時予熱プラグを予熱します。

START.....エンジン始動をする位置。手をはなせば、自動的にONにもどります。

〈ロックするときは〉

ボタンを押しながらキーを**LOCK**の位置に回します。キーを抜くとハンドルがロックされ車両盗難防止に役立ちます。

★キーが**LOCK**から**ACC**に回らないときは、ハンドルを軽く左右に動かしながら、キーを**ACC**に回してください。

★バッテリーあがりを起こさないために、下記の事項を必ず守ってください。

1. エンジン停止時は、スイッチを**LOCK**または**ACC**にする。

長時間停止する場合は、LOCKの位置にする。

2. エンジンがかからないとき、15秒（ディーゼル車は30秒）以上STARTの位置へ回したままにしない。
3. エンジンを止めた状態（ON, ACC）で、ラジオやステレオを長時間つけたままにしない。
4. クルーズ・コンピューターおよび、エレクトロニック・スピーク・モニター付き車は、消費電力が大きいのでエンジン停止時は必ずスイッチをOFFにする。

■エンジン始動

チェンジ・レバーの位置をマニュアル・トランスミッション車は①、オートマチック・トランスミッション車は②にします。

ガソリン車（13T-U, 13T-J, 21R-U
エンジンとう載車）

<エンジンが冷えているとき>

1. アクセル・ペダルを次表にしたがって踏み込みます。

外 気 温	踏 む 回 数
+5℃以上	軽く1回
+5℃～-10℃	いっぱい1～2回
-10℃以下	いっぱい2～3回

2. アクセル・ペダルから足をはなし、エンジンを始動します。
3. しばらく暖機運転をします。
自動チョークが働いていますのでエンジン回転は徐々に高くなります。
4. 回転が高くなったときは、アクセル・ペダルを軽く踏んでから足をはなし回転を下げてください。



エンジンが暖機されると自動的に回転は下がりますが、暖機運転中は回転が高くなりすぎることがあります。外気温によってことなりますが約20℃のときであれば、エンジン始動後約30秒でアクセル・ペダルを軽く踏んではなし回転を下げてください。

<エンジンが暖まっているとき>

アクセル・ペダルを半分程度に踏み込んだままエンジンを始動してください。

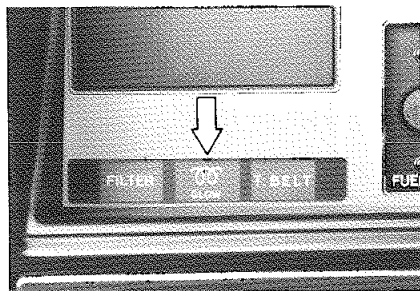
ガソリン車（18R-GEU, 1G-EU,
5M-EUエンジンとう載車）

1. アクセル・ペダルから足をはなしたままエンジンを始動します。
2. そのままで、しばらく暖機運転をします。暖機が終われば自動的にアイドル回転になります。

ディーゼル車（Lエンジンとう載車）

ディーゼル車の始動はガソリン車と異なり、予熱プラグの加熱が必要です。

1. エンジン・スイッチをONにする
と予熱表示灯が点灯します。



2. 予熱プラグの加熱が完了し、表示灯が消灯したらアクセル・ペダルを半分程度踏み込みスターターを回します。

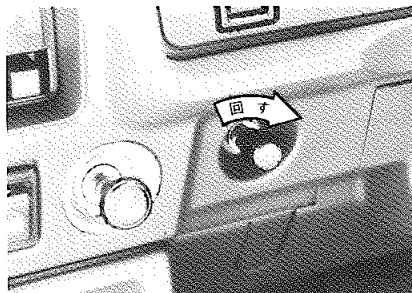
予熱時間は、エンジン冷却水温により自動的に制御され、冷却水温の低いとき、および寒冷時には多少長くなります。

3. エンジンの回転が完全に持続するまで、スターターを回してください。

★スターターを回し続けて約30秒経過しても始動できない場合は、いったんエンジン・スイッチをACCの位置にもどし、少し間をおいてから1～3をくりかえしてください。

★エンジンが暖まっているときは、予熱表示灯に関係なく始動できます。

4. エンジン始動後は、アイドル調整ツマミを右方向に回してエンジンが安定して回る所まで回転をあげ、十分暖機運転をしてください。



5. 暖機後は、アイドル調整ツマミを左にいっぱい回し、標準のアイドル回転にもどしてください。

寒冷時エンジンが冷えている状態では、アイドル回転数が下がりますので始動前にアイドル調整ツマミを右に回してください。始動後、暖機が終わりましたらアイドル調整ツマミを左に回してください。

■エンジン・ヒーター

寒冷地仕様のディーゼル車に注文装備

寒冷時電熱ヒーターにより冷却水を暖めて始動性を良くします。

通电時間は気温や周囲の状態などにより異なりますが、およそ次の時間を目安にご使用ください。

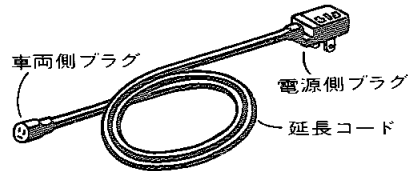
外気温	通 電 時 間	
	トランスミッション車	オートマチック・トランスミッション車
-20℃	30分以上	60分以上
-25℃	60分以上	90分以上
-30℃	90分以上	120分以上

なお、通电時間が長い程暖機運転時間の短縮およびヒーターの速効性に効果があります。

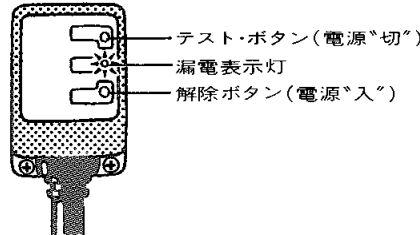
また、長時間通电しても過熱の心配はありません。

＜使用方法＞

1. 冷却水の量が適正であることを確認します。(97ページの「冷却水の量」の項目を参照してください。)
2. 延長コードの電源側プラグを電源コンセント (AC100V) に差し込み、テスト・ボタンを押して漏電表示灯が点灯することを確認します。次に解除ボタンを押して (表示灯は消灯) コードをコンセントからはずします。

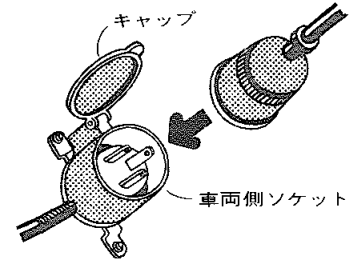


電源側プラグ(漏電保護プラグ)



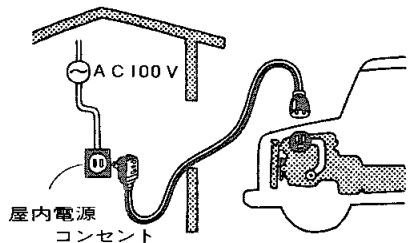
使用前と月1回以上、上記のテストを行なってください。万一、テスト・ボタンを押しても正常に作動しない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

3. 延長コードを車両側ソケットに確実に差し込み、ボンネットを軽くしめます。



コードを損傷させないようにボンネットはロックするまでしめないこと。

4. 延長コードのもう一方をAC100Vコンセントに差し込みます。これでエンジン・ヒーターに通电されます。



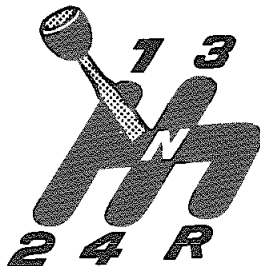
通電中に漏電表示灯が点灯(電源“切”)した場合、一度解除ボタンを押してください。解除後も点灯するときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

5. コードの取りはずしは電源側から行ない、車両側ソケットのキャップをしめます。

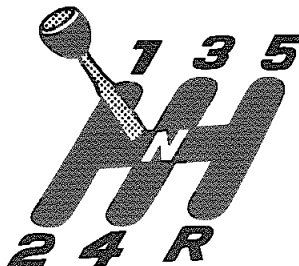
エンジンを始動する前に必ず延長コードを取りはずし、車両側ソケットのキャップをしめてください。

■チェンジ・レバー

▶マニュアル・トランスミッション
〈4速フロア・チェンジ〉

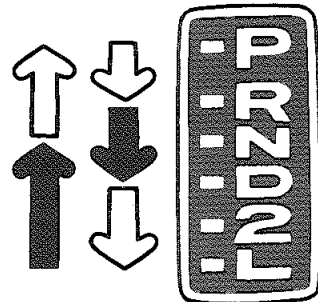
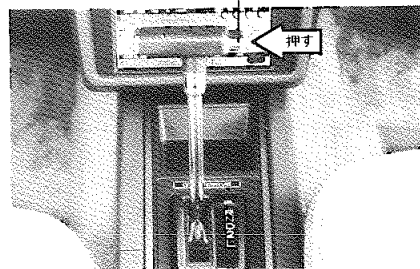


〈5速フロア・チェンジ〉



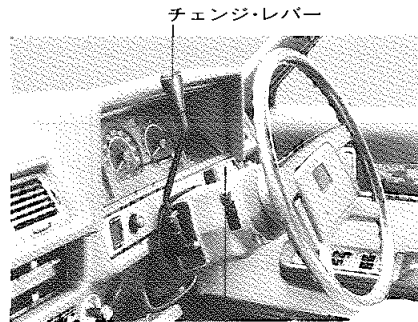
▶オートマチック・トランスミッション
〈フロア・チェンジ〉

チェンジ・レバー・ボタン

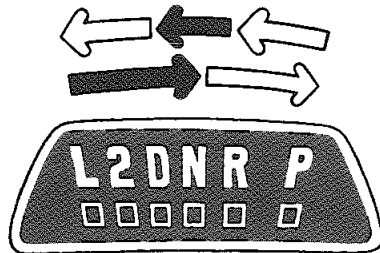


- ➔ そのまま動かします。
- ➔ チェンジ・レバー・ボタンを押して動かします。

<ハンドル・チェンジ>



チェンジ・レバー位置表示



→ そのまま動かします。

→ チェンジ・レバーを手前に引いて動かします。

<各位置の働き>

- ① **パーキング（駐車）**
駐車およびエンジン始動の位置。
- ② **リバース（後退）**
バックさせるときの位置。
- ③ **ニュートラル（中立）**
この位置でもエンジンを始動することができますが、安全のために⑤レンジで始動しましょう。
- ④ **ドライブ（通常走行）**
通常走行の位置。
- ⑤ **セカンド（2速）**
エンジン・ブレーキが必要な場合に使う位置。
- ⑥ **ロー（1速）**
強力なエンジン・ブレーキが必要な場合に使う位置。
50km/h以上（ディーゼル車は40km/h以上）では使用しないでください。

<運転のしかた>

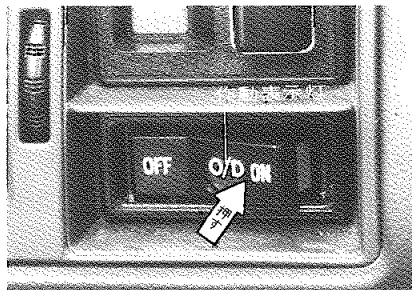
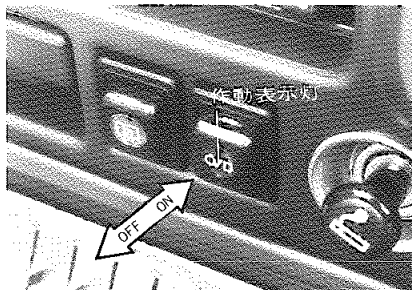
1. 通常は⑥で発進すると、ロー・ギヤからスピードによりセカンド・ギヤ、トップ・ギヤにと自動的に切り替わります。
2. マニュアル・トランスミッション車と同様に、⑥から発進し、②から⑥へと手動の操作でも運転できます。
3. 急坂路を下るときは、路面状態やスピードに応じて⑥または②に入れて、エンジン・ブレーキをかけます。
4. 追い越しなど急加速をしたいときは、アクセル・ペダルをいっぱい踏み込むと、レバーは⑥でも、ギヤはトップからスピードによりセカンド、またはロー・ギヤに切り替わって急加速ができます。
(キック・ダウン操作)

★注意

1. エンジンを始動するときは、必ず駐車ブレーキ・レバーを引いてから行なってください。
2. ㊸と㊹へは、車が完全に止まってから入れてください。
3. 停車中、㊸以外では、エンジンを高回転にしないでください。
4. アクセル・ペダルを踏み込んだまま、㊸から㊹または㊹へ切り替えないでください。また、停車中にチェンジ・レバーを切り替えるときは、ブレーキをかけた状態で行なってください。
5. 駐車時は、必ず駐車ブレーキをかけ、チェンジ・レバーを㊸にしてください。
6. ㊸から㊹へ完全にチェンジ・レバーを入れてから（1秒たって）アクセル・ペダルを踏み込み発進してください。
7. ㊸、㊹以外で停車しているときはブレーキを踏むか、駐車ブレーキ・レバーを引いてください。

■オーバードライブ・スイッチ

オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッション車



オーバードライブ装置付き車は3速オートマチック・トランスミッションにオーバードライブ装置を加え4速オートマチック・トランスミッションとしての機能を持たせたものです。

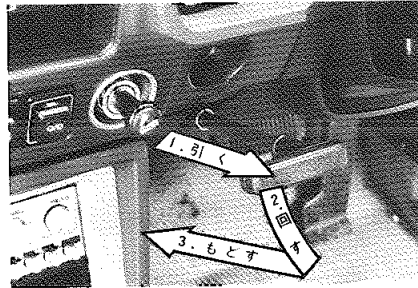
1. 通常走行時はオーバードライブ・スイッチをONにしておいてください。4速オートマチック・トランスミッションとして働きます。ただし、冷却水が冷えている場合にはオーバードライブ装置が作動せず（Lエンジンとう載車を除く）、3速オートマチック・トランスミッションとして働きます。
2. オーバードライブが作動しているときは、スイッチ内の作動表示灯が点灯します。
3. オーバードライブ・スイッチをOFFにしておけば3速オートマチック・トランスミッションとして働きます。

★注意

1. 登山道路など長坂路を上り下りするときは、スイッチをOFFにしておいてください。
2. 強いエンジン・ブレーキが必要なときは、スピードに応じて㊸または㊹に入れてください。

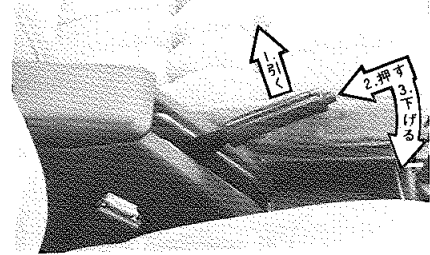
ただし、すべりやすい路面では、タイヤがスリップして危険ですので急激なエンジン・ブレーキをかけることはさけてください。

■ 駐車ブレーキ・レバー
▶ ハンドル・チェンジ車

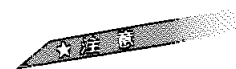


駐車時いっぱい引いて使用します。もどすときはレバーを軽く引きながら下に約60°回してもどします。
走行前にレバーをもどして必ず駐車ブレーキ表示灯が消えたことを確かめてください。

▶ フロア・チェンジ車

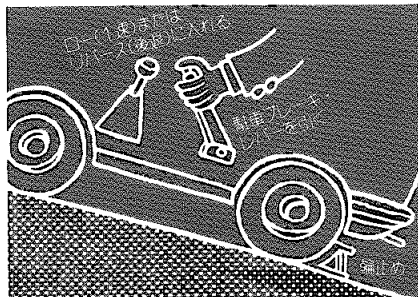


駐車時いっぱい引いて使用します。もどすときはレバーを少し引き上げながら先端のボタンを押してもどします。



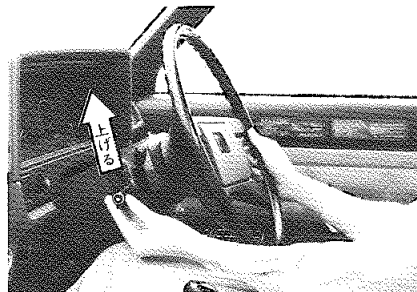
駐車ブレーキ・レバーを引いたまま走行するとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

▶ 駐車のかた



駐車ブレーキ・レバーを引き、チェンジ・レバーの位置をマニュアル・トランスミッション車はロー（1速）またはリバース（後退）、オートマチック・トランスミッション車はPに入れ、坂道では輪止めを忘れずにしてください。なお、急な坂道での駐車はなるべくさけてください。

■ チルト・ステアリング（上下調整式ハンドル）の調整 *



ツマミを押し上げている間、ハンドル位置を上下に変えることができます。

1. 適切な位置でツマミをはなせば、ハンドルはその位置で固定されます。
2. 調整後は、ハンドルを上下に動かして固定されたことを確認してください。



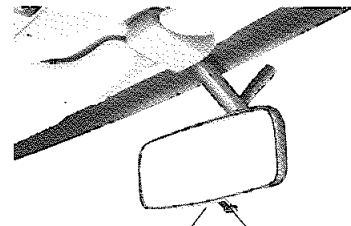
ハンドルの位置調整は、走行前に行なってください。車が動いているときの調整は、危険です。

■ ミラー調整

走行前に後方視野が十分確認できる位置に調整しましょう。

▶ 防眩式ルーム・ミラー

スタンダード車は除く



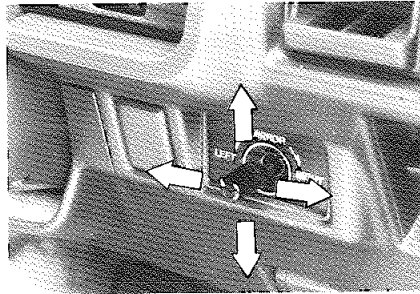
後続車の前照灯がまぶしいとき

後続車の前照灯がミラーに反射してまぶしいとき、ミラーの下にあるレバーを手前に引くと後続車の前照灯の確認が楽になります。

分割可倒式リヤ・シート車（37ページ参照）の場合、夜間に仕切り板をひらいた状態で走行するとミラーに後退灯、尾灯などの光が映ることがあります。その場合は通常的位置（レバーを前側に倒した位置）にしてください。

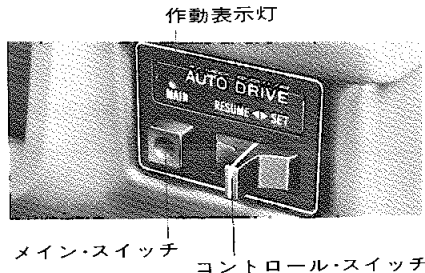
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

▶ 電動フェンダー・ミラー *

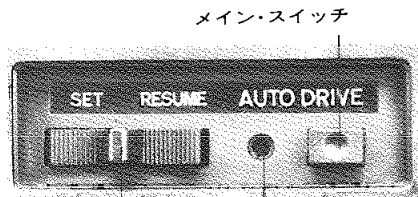


ツマミをRIGHTの位置に回して、上下左右に動かすと右側のフェンダー・ミラーの位置調整ができます。LEFTの位置に回せば、左側のミラーも同様に調整できます。

■ オート・ドライブ (自動定速走行装置) *



作動表示灯
メイン・スイッチ
コントロール・スイッチ



メイン・スイッチ
作動表示灯
コントロール・スイッチ

オート・ドライブはアクセル・ペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。40~100km/hの任意の速度で定速走行することができます。

1. 希望速度にセットするとき

メイン・スイッチを押すと、作動表示灯が点灯します。

次にコントロール・スイッチをSET側に押してからはなすと、そのときの速度にセットされます。

2. 一時的に増速したいとき

(オート・ドライブ走行中)
アクセル・ペダルをそのまま踏み込んでください。アクセル・ペダルをはなせば再びもとの設定速度にもどります。

3. 増速セットするとき

(オート・ドライブ走行中)
アクセル・ペダルをそのまま踏み込んで希望の速度に達したら、コントロール・スイッチをSET側にします。

4. 減速セットするとき

(オート・ドライブ走行中)
ブレーキ・ペダルを踏むことにより減速して、希望速度まで減速したらコントロール・スイッチをSET側にします。

5. オート・ドライブ状態を解除するとき

ブレーキ・ペダルを軽く踏みます。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

6. 次の場合も解除できます。

- (1)メイン・スイッチを「OFF」にしたとき
- (2)チェンジ・レバーを④にしたとき
(オートマチック・トランスミッション車)
- (3)クラッチ・ペダルを踏んだとき
(マニュアル・トランスミッション車)
- (4)車速が約40km/h以下になったとき
- (5)駐車ブレーキ・レバーを引いたとき

7. 解除前の設定速度に復帰させたいとき

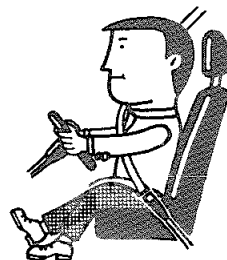
5. および6. の(2), (3), (5)の解除方法で一度、オート・ドライブが解除されても、車速が40km/h以上であればコントロール・スイッチをRESUME(復帰)側に押すことにより、自動的に解除される前の設定速度までもどり、その後、定速走行を維持します。



1. メイン・スイッチをOFFにすれば、オート・ドライブの全動作を停止、解除できます。
2. オート・ドライブを使用しないときは、安全のためメイン・スイッチをOFFにしておいてください。
3. ブレーキ・ペダルの操作により解除するときは後続車に注意して行なってください。

シートの調整

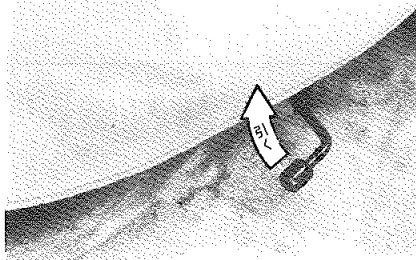
■フロント・シートの位置調整



ペダルを十分踏み込むことができる、ゆとりある位置に調整しましょう。位置調整は必ず走行前に行なってください。

▶ 前後位置調整

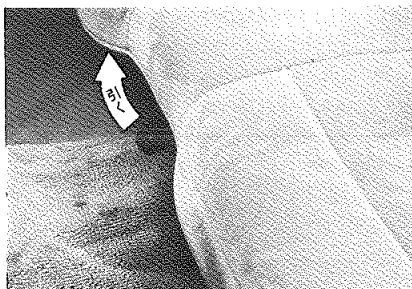
セミ・セパレート・シート車を除く



レバーを引き上げている間、前後の位置調整ができます。

調整後はシートが固定されたことを確認してください。

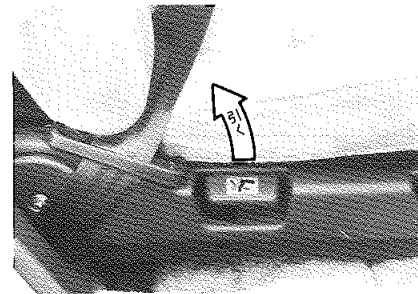
セミ・セパレート・シート車



シート中央のレバーを内側に引いてください。

走行中、助手席の人がレバーを操作することがないようにご注意ください。

▶ リクライニング(背もたれ角度)調整

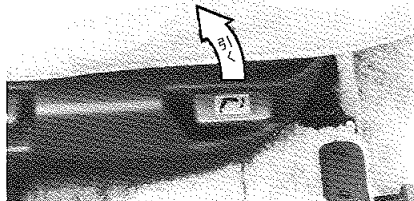


レバーを引き上げると、背もたれの角度が調整できます。

調整後は背もたれが固定されたことを確認してください。

■シート上下位置調整装置 *

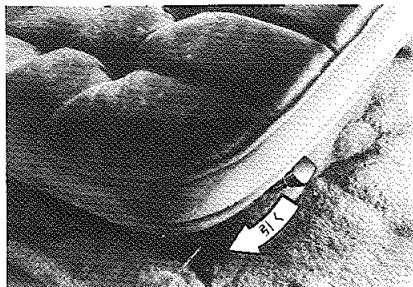
セパレート・シート車



運転席右横のレバーを引いてシート・クッション前部の高さを4段階に調整することができます。

適切な高さにした後、レバーをはなすとシート・クッションは固定されます。調整後はシートが固定されたことを確認してください。

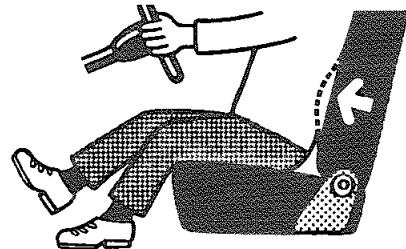
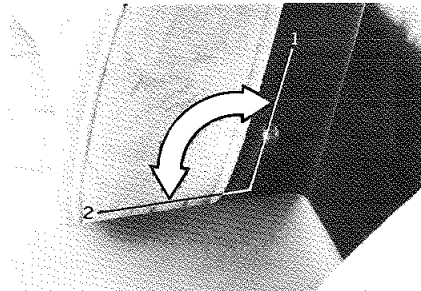
セミ・セパレート・シート車



運転席右前のレバーを引いて、シート・クッション前部の高さを2段階に調整することができます。

調整後はシートが固定されたことを確認してください。

■ランバー・サポート(腰部当たり調整) *



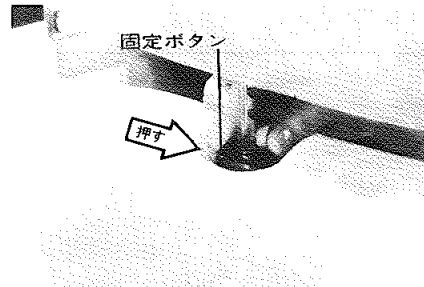
レバーを1～2へ動かすごとに背もたれの腰部の硬さを変えることができます。硬さは3段階の調整ができます。

■ヘッド・レストの位置調整

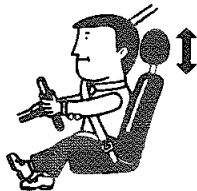
▶フロント・シート側

〈上下調節式〉

グランデ車を除く

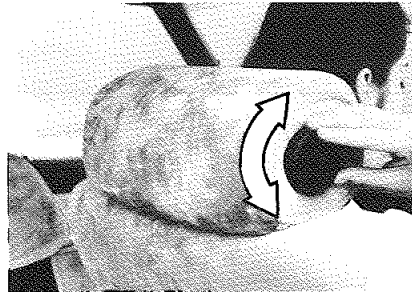


ヘッド・レストの高さが耳の後方になるように調節位置を選んでください。上げるときはそのまま引き上げ、下げるときは固定ボタンを押しながら下げます。



〈前後・上下調節式〉

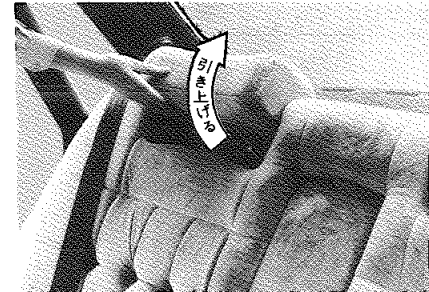
グランデ車



ツマミを前に回せば前方へ、うしろに回せば後方に移動します。高さ調節は、上下調節式と同じです。

▶リヤ・シート側

グランデ車



ヘッド・レストの下部を引き上げると、ヘッド・レストの位置が上がる同時に前へ出ます。

★注意

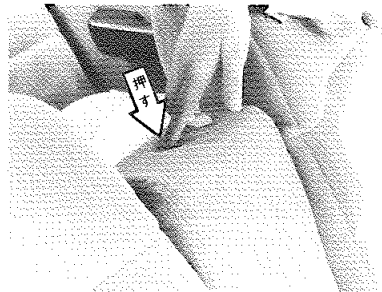
1. 正しい位置で使用してください。
2. 背もたれと背中の中に厚いクッションなどを入れると危険防止に役立ちません。

■中央アーム・レスト(ひじかけ)

前へ倒して、ひじかけとしてご利用ください。

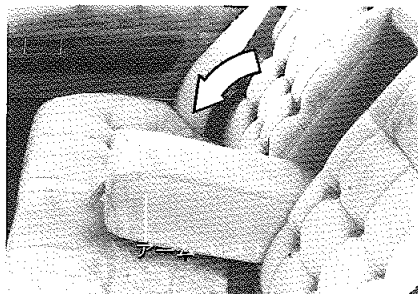
▶フロント・シート側

セミ・セパレート・シート車



ボタンを押して倒します。

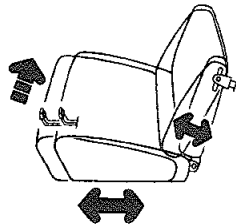
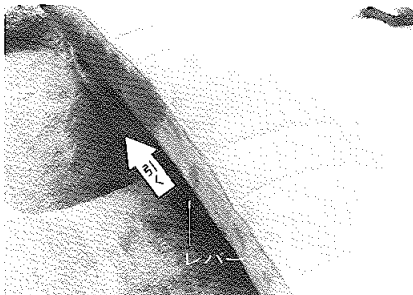
▶リヤ・シート側 *



■リヤ・シート

▶リヤ・シート・リクライニング(背もたれ角度調整)

セダンのグランデ車

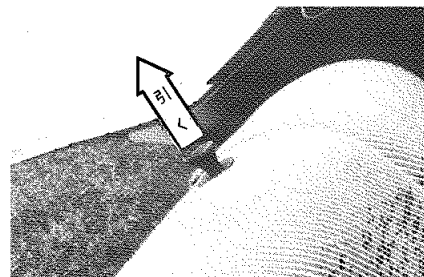


レバーを引いている間、シート・クッションを前方へ3段階移動させることができます。同時に背もたれ下部が前方へ移動し、角度が変わります。

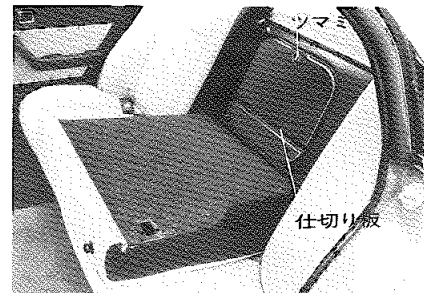
調整後はシートが固定されたことを確認してください。

▶分割可倒式リヤ・シート *

ハードトップ車



1. シート上部左側の背もたれ固定ボタンを上側にいっぱい引けば、背もたれ左側部を前に倒すことができます。

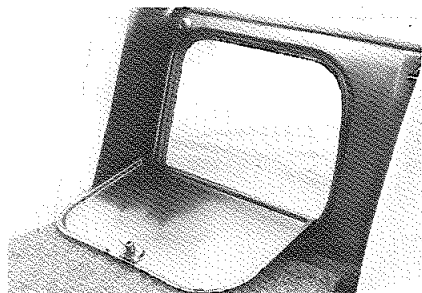


2. ツマミを回して仕切り板をはずせば、長い物(スキー板など)も積

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

むことができます。

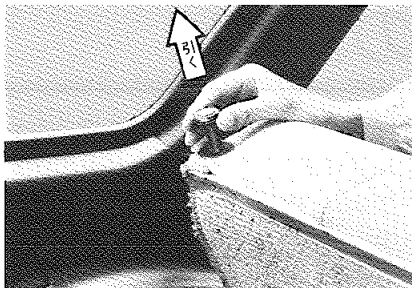
また室内からトランク内の荷物を
取り出すこともできます。



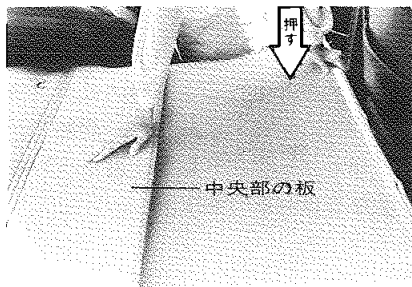
3. 背もたれを起こすときは、持ち上げてうしろに押えつくと自動的に固定されます。

▶ 荷室の作り方

ワゴン車



1. シート上部左右にある背もたれ固定ボタンの一方を上側にいっぱい引けば、背もたれを前に倒すことができます。



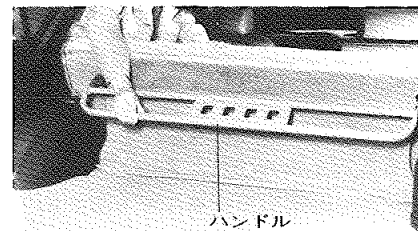
2. 倒した背もたれを押すと、中央部の板がセットされます。

〈背もたれを起こすときは〉

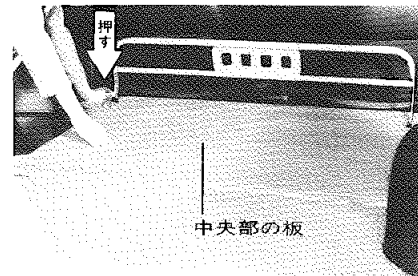
背もたれを押し、中央部の板を持ち上げてから起こしてください。

うしろに押えつくと自動的に固定されます。

バン車



1. 背もたれのうしろにあるハンドルを引き上げてから前に倒します。



2. 倒した背もたれを押すと、中央部の板がセットされます。

〈背もたれを起こすときは〉

1. ハンドルを倒します。
2. 背もたれを押して中央部の板を持ち上げます。
3. 背もたれを起こし、うしろに押えつくと自動的に固定します。

★注意

背もたれを起こしたときは、背もたれが確実に固定していることを確かめてください。

シート・ベルト の装着

ドライバーと同乗者の安全を守るために、フロント・シートおよびリヤ・シートにシート・ベルトが装備されています。

シート・ベルトは正しく装着しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法、注意にしたがってベルトの正しい取り扱いを身につけてください。

★走行前に必ずシート・ベルトを装着してください。

★腰部ベルトは、必ず腰骨の位置に装着してください。軟らかい腹部にかけると万一のとき強い圧迫をうけ危険な場合があります。

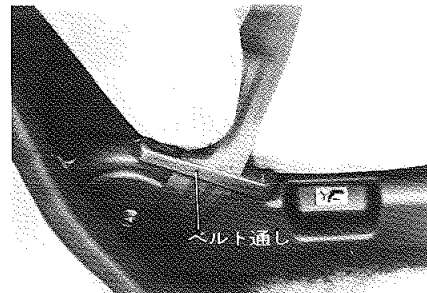
■フロント・シート・ベルト

▶緊急時固定式シート・ベルト

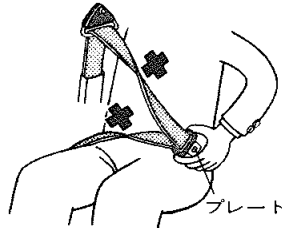
〈装着のしかた〉

通常は引き出し、巻き取りが自由なため、ベルトの長さを調節する必要はありません。ただし、緊急時には自動的にロックされます。

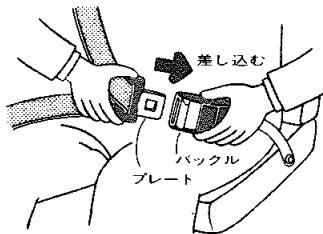
1. シートを調整し、正しい姿勢ですわります。
2. ベルトをベルト通しに通してください。



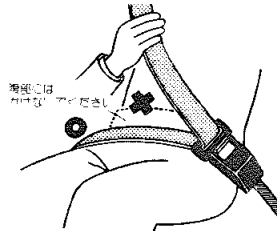
3. 巻き取り装置からプレートを持ってゆっくり引き出し、ねじれていないことを確かめます。



4. プレートをカチッと音がするまで確実にバックルに差し込みます。

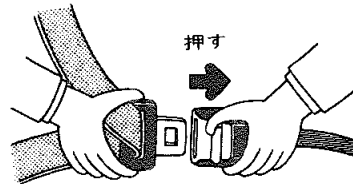


5. 腰部ベルトは必ず腰骨の位置にかかるとようにします。



<取りはずしかた>

バックルのボタンを押すとはずれます。



プレート側のベルトは自動巻き取り式ですので、ベルトをはずすと自動的に格納されます。

■リヤ・シート・ベルト

バン車は注文装備

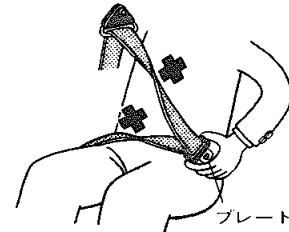
▶ 緊急時固定式(3点)シート・ベルト

セダンのグランデ車

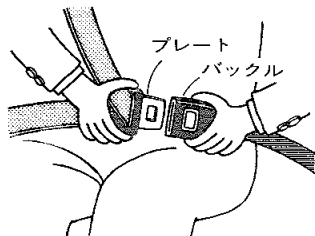
<装着のしかた>

通常は引出し、巻取りが自由なため、ベルトの長さを調節する必要はありません。ただし、緊急時には自動的にロックされます。

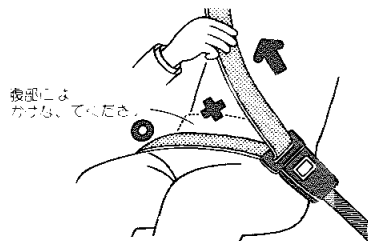
1. 巻き取り装置からプレートを持ってゆっくり引き出し、肩ベルトが正しくねじれていることを確かめます。



2. プレートをかチッと音がするまで
確実にバックルに差し込みます。

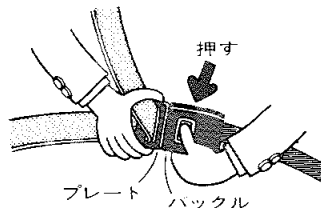


3. 腰部ベルトは必ず腰骨の位置にか
かるようにし、肩ベルトを少し引
いて腰部のゆるみがないようにし
ます。



<取りはずしかた>

バックルのボタンを押すとはずれます。



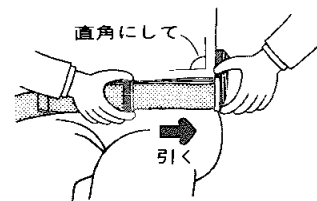
プレート側のベルトは自動巻き取り式
ですので、ベルトをはずすと自動的に
格納されます。

▶長さ調整式(2点)シート・ベルト

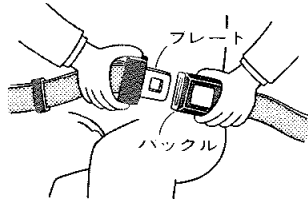
セダンのグランデ車を除く

<装着のしかた>

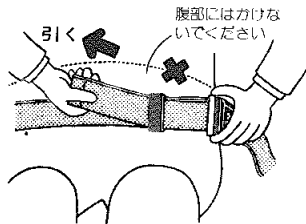
1. 正しい姿勢ですわりプレート側の
ベルトを少し長めにしてベルトが
ねじれていないことを確かめます。



2. プレートをかちっとな音がするまで確実にバックルに差し込みます。

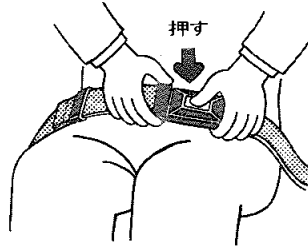


3. ベルトが必ず腰骨の位置にかかるようにし、腰部のゆるみをプレート側のベルトを引いてなくします。



<取りはずしかた>

バックルのボタンを押すとはずれます。



はずしたベルトは、プレートをバックルにはめておいてください。



1. フロント・シート・ベルトを装着した状態で、肩ベルトが首、あご、顔などに当たるようなお子様の場合は万一のとき危険ですから、リヤ・シートにすわり、リヤ・シート・ベルト(2点式)を装着してください。

また1人ですわることができない乳幼児の場合はシート・ベルトを

使用しないでください。

2. ベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
3. 妊娠中の女性や疾患のある方のシート・ベルト装着は、万一の場合腹部などに強い圧力を受けるおそれがありますので医師に相談のうえご使用ください。
4. ベルトのよごれは、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使いブラシをかけて落としてください。
5. ドアへのはさみ込み、よごれなどを防ぐため使用しないベルトは所定の位置に格納しておいてください。
6. ベルト各部の損傷、作動状態を点検しましょう。
ほつれ、すり切れができたり、金具部などが正常に作動しなくなった場合は、ベルトを交換してください。

室内装備の 使い方

■時計 *

▶日づけ/曜日付き水晶式デジタル



エンジン・スイッチの位置に関係なく時刻が表示され、**DATE** ボタンを押すと約6秒間月日および曜日を表示します。

1. AMは午前、PMは午後を表わします。
2. ライト・スイッチがONのときは、表示部が照明されます。

<時刻調整>

1. 時報に合わせるとき
調整ツマミを引くと時報に合わせる
ことができます。
● 0～29分は切り下げて表示されま
す。
(例)1:29のときにツマミを引くと
1:00に調整されます。
● 30～59分は切り上げて表示されま
す。
(例)1:30のときにツマミを引くと
2:00に調整されます。
2. “時” 調整
ツマミを押したまま左へ回すと
“時” 表示が早送りされます。

3. “分” 調整

ツマミを押したまま右へ回すと
“分” 表示が早送りされます。

時刻調整時に、午前(AM)と午後(PM)
を正しく選択しないと日づけ変更が正
しく行なわれません。

<日づけ/曜日調整>

DATE ボタンを押して時計表示を日
づけ/曜日表示にしている間調整がで
きます。

1. “月” 調整

調整ツマミを押したまま左へ回す
と月表示が早送りされます。

2. “日” 調整

調整ツマミを押したまま右へ回す
と日表示が早送りされます。

3. “曜日” 調整

調整ツマミを引くごとに曜日表示
が早送りされます。

[参考]SUN(日曜日)、MON(月曜日)、
TUE(火曜日)、WED(水曜日)、
THU(木曜日)、FRI(金曜日)、
SAT(土曜日)

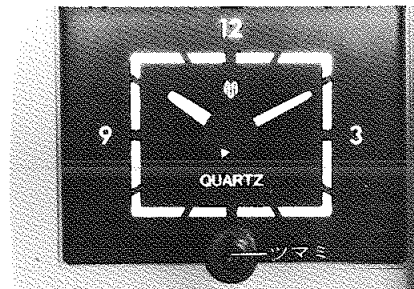
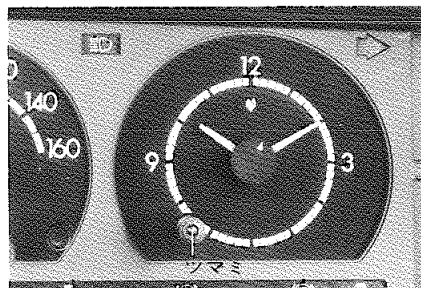
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

無断複製禁止

★日づけ表示は、2月の場合29日表示します。うるう年以外のおときには調整してください。なお、2月以外の月は自動的に変更するため調整の必要はありません。

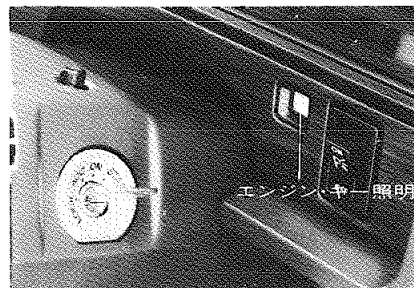
★一度電源が切れた（バッテリーをはずしたときなど）あと、電源が接続されると1月1日、1:00分にセットされますので、正しい月日、曜日、時刻に調整してください。

▶ 水晶式三針



時刻調整は、ツマミを引いたまま回します。

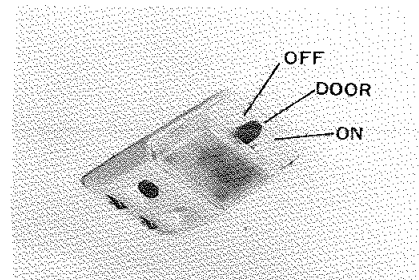
■ エンジン・キー照明 *



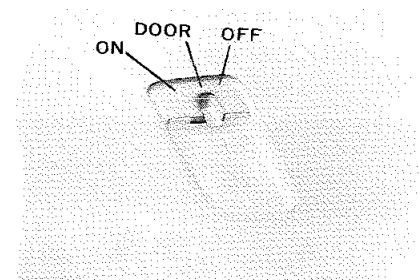
ドアをあけると計器盤内にあるライトが、エンジン・スイッチを照らします。ただし、ドアをとじてから約5秒後に消灯します。

■ 室内灯とドアの関係

グランデ車



グランデ車を除く

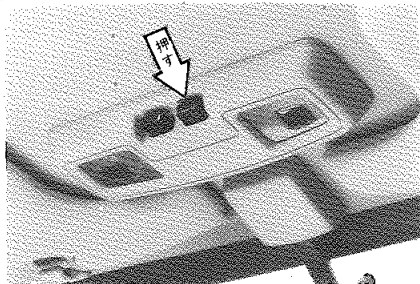


- ON**.....ドアの開閉に関係なく点灯します。
- DOOR**.....ドアをあけたときのみ点灯します。
- OFF**.....ドアの開閉に関係なく消灯します。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

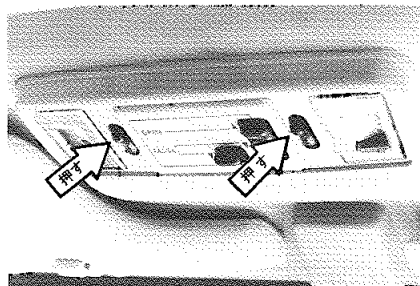
■フロント・スポット・ライト *

サン・ルーフ付き車を除く



スイッチ右側を押すと右側のライトが点灯します。もう一度押すと消灯します。左側も同様です。

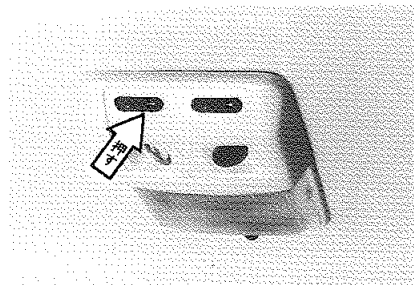
サン・ルーフ付き車



スイッチを押すとライトが点灯します。

■リヤ・スポット・ライト

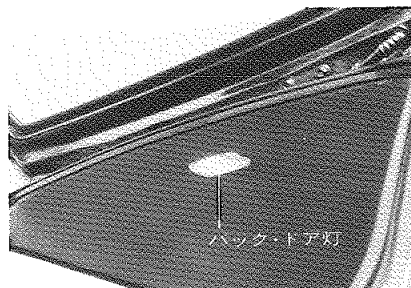
グランデ車(サン・ルーフ付き車を除く)



スイッチを押すとライトが点灯します。

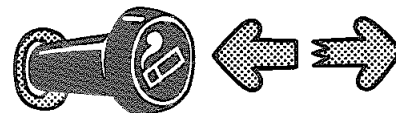
■バック・ドア灯

ワゴン/バン車



バック・ドアよりの天井にあります。どのドアをあけたときにも点灯します。

■シガレット・ライター



エンジン・スイッチがACCかONのとき使用できます。

ツマミを押し込んだら、すぐ手をはなし、とび出すまで待ちます。



1. 押えつけたままにすると、シガレット・ライターが過熱し非常に危険です。
2. ソケットに他車のシガレット・ライターを差し込まないでください。
3. ソケットからは、湯わかし器など、トヨタ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。

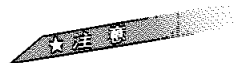
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

無断複製禁止

■ 灰皿

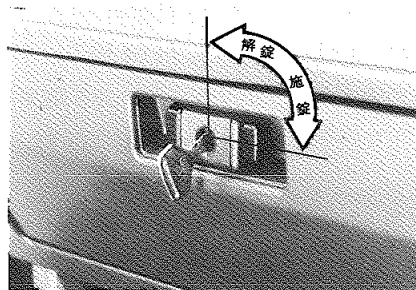
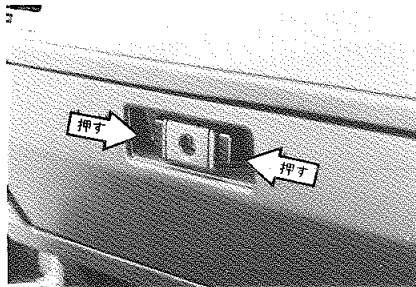


掃除するときは下へ押しながら引き出してください。



1. 使用後は確実にしめてください。
あけたままにするとタバコの火が他のすいがらに燃えひろがり火災になるおそれがあります。
2. 灰皿には吸いがらをためすぎないでください。
3. 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
4. マッチ、タバコなどの火は消してから灰皿の中に入れてください。

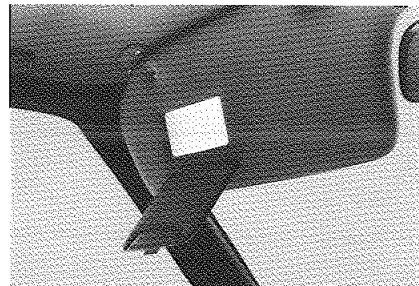
■ グローブ・ボックス(小物入れ)



キーを差し込んで右へ回せば施錠できます。

サブ・キーは使用できません。

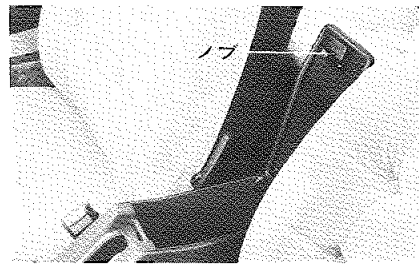
グローブ・ボックスをあけたまま走行すると危険です。必ずしめてください。

■ 化粧ミラー付きサン・バイザー
(日よけ) *

助手席側サン・バイザーの裏側に、ミラーがついています。

■ フタ付きコンソール・ボックス
(小物入れ)

スタンダード、デラックス車を除く

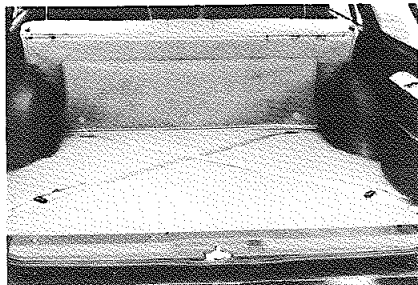


ノブを引くとフタをあけることができます。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

■ 荷物固定ベルト *

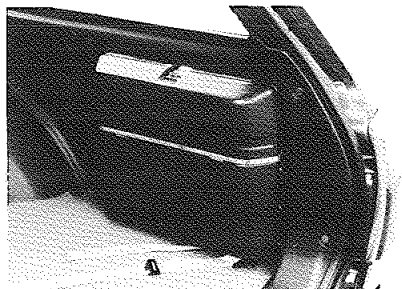
ワゴン/バン車



長尺物および移動しやすい荷物を固定するのに便利です。急停車などのとき荷物が移動せず安全です。

長さを調整することもできます。

■ クォーター・トリム・ボックス
(小物入れ) *

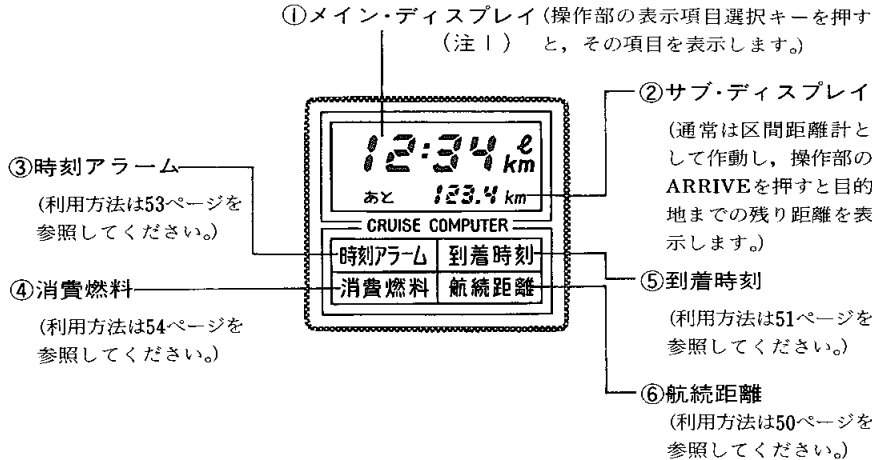


荷台右側に備えられています。
クォーター・トリム・ボックス専用の
キーで施錠できます。

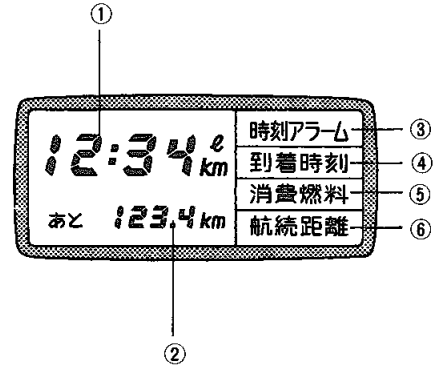
■ クルーズ・コンピューター(走行情報表示装置) グランデ車のみ注文装備

▶ 表示部(計器盤内)

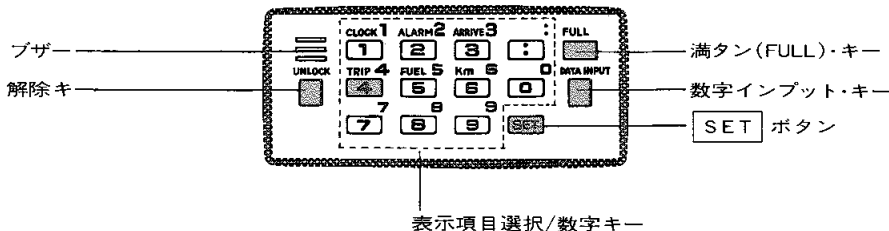
<セダン>



<ハードトップ>



▶ 操作部—表示項目の選択と数字キーを兼ねています。



(注1) エンジン・スイッチを1度OFFにしてからONにすると、OFFにする前に表示されていた項目が表示されます。

クルーズ・コンピューターは、マイクロ・コンピューターによって、消費燃料、到着時刻などの情報を表示します。

1. エンジン・スイッチがACCかONのとき作動します。
2. 操作部はライト・スイッチONのときカバーをあけると、照明されます。
3. 表示部は、ライト・スイッチがONのとき、減光して表示されます。
4. クルーズ・コンピューターを使用しないときは、誤操作を防ぐため操作部のカバーはとじてください。



クルーズ・コンピューターを正しく作動させるため、必ず下記事項を守ってください。

1. 燃料補給のときは、必ず満タンにし、満タン(FULL)・キーを忘れずに押してください。航続距離を知るために欠かせない条件です。
2. 走行中は数字のインプット（コンピューターに数字を記憶させる）

は行なえません。必ず車を停止させて行なってください。

ただし、走行中でも解除キーを押している間は数字インプットが可能となりますが、操作は必ず助手席の人が行なうようにしてください。

3. キーを操作するときは、ピツという音が聞こえるまで、確実に押してください。

また、満タン・キーの場合は、キーを押すとブザーが約3秒間鳴り続けます。このブザーが鳴り終わるまで、キーを押し続けてください。

4. エンジンを止めて長時間駐車する場合などは、必ずエンジン・キーをOFFにしてください。ACCのままにしておく则表示部が点灯し続け、バッテリーあがりの原因になります。
5. バッテリーを一度はずすと、コンピューターに記憶されている情報は消滅します。

▶ 数字インプット・キーの使い方

クルーズ・コンピューターのキーは、

1. 表示項目の選択キーとして
2. 数字キーとして

の2つの機能をもっています。

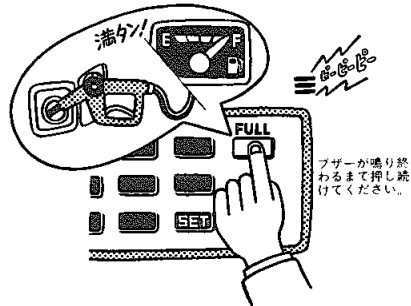
数字インプット・キーを押すことによりキーは数字キーとして働き、数字をインプット（コンピューターに数字を記憶させる）することができます。数字のインプットを必要とするのは次の項目です。

CLOCK (時刻)	時刻を修正するとき (時報合わせを除く)
ALARM (時刻アラーム)	覚えておきたい時刻 をセットするとき
ARRIVE (到着時刻)	目的地までの距離を セットするとき

また、インプット後 **SET** ボタンを押すことにより、コンピューターはインプットが完了したことを認知し、キーは表示項目の選択キーに変わります。走行中は数字のインプットは行なえません。必ず車を停止させて行なってください。

ただし、走行中でも解除キーを押している間は数字インプットが可能となりますが、操作は必ず助手席の方が行なうようにしてください。

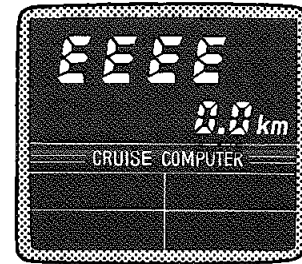
▶ 満タン(FULL)・キーについて



燃料を満タン補給したときに必ずこのキーを3秒以上押してください。コンピューターが満タンを認知し、しばらく表示が消えた後、**航続距離**が表示されます。

▶ エラー・チェック

クルーズ・コンピューターは、エラー・チェック機構を内蔵しています。誤った数字インプットを行なった場合や、積算値が表示機能の限度を越えたときは右図のように表示されます。右図のような表示をする場合と、その処置方法は次の通りです。



エラー表示をする場合

12時間表示(1:00~12:59)にあり得ない時刻などをセットしたとき。
例: 13時67分, 0時00分

時刻を修正したり、時刻アラームをセットするときに、**□**キーを押し忘れたとき。

エラー表示をなおすには

そのまま数字インプット・キーを押し、やりなおしてください。

クルーズ・コンピューター内部で走行距離の積算値が999.9kmを越えたとき。

クルーズ・コンピューター内部で消費燃料の積算値が99ℓを越えたとき。

航続距離を表示しているとき。

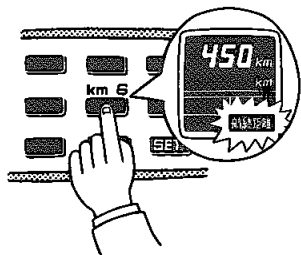
消費燃料を表示しているとき。

満タン・キーを押しなおしてください。

TRIP **□**キーを押しなおしてください。

▶ 航続距離を知りたいときは

1 km [6] キーを押してください。



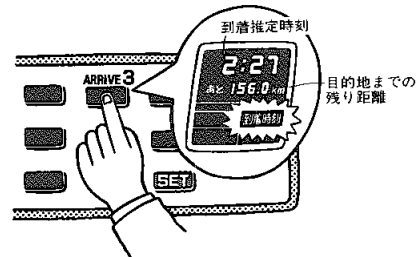
☆新車を受けとった際に、航続距離として表示される数字は、正しい数値を示していないことがあります。燃料を満タンにし、満タン・キーを押してからご利用ください。これによりコンピューターが燃料残量、燃費率などからあと何km走行できるかを計算します。

☆航続距離がまだ十分走行可能な表示をしていますが、燃料計がEに近づくか、燃料残量警告灯が点灯したら、早目に燃料を補給してください。

☆表示される航続距離は、運転方法、道路状況などにより増減することがあります。

▶ 目的地への到着時刻および目的地までの残り距離を知りたいときは

1 ARRIVE [3] キーを押してください。

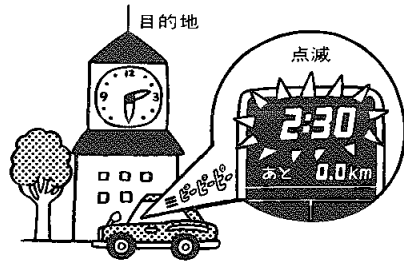


2



セットされた目的地までの距離と車速から、到着時刻を推定し表示します。このときサブ・ディスプレイには目的地までの残り距離が表示されます。

3

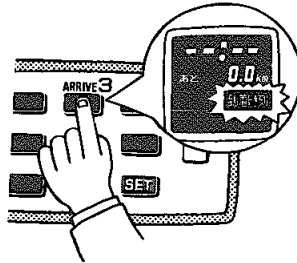


残り距離が0になると、到着時刻を点滅し、ブザーが鳴ります。また、このとき他の項目を表示していても、**到着時刻**表示に自動的に切り替わります。

なお、到着推定時刻の表示は、車速によって順次修正されます。

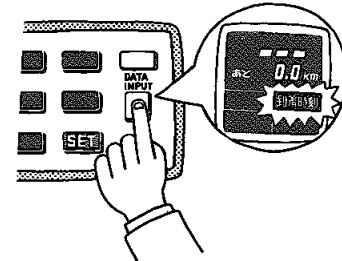
〈目的地までの距離のセット〉
(例：目的地までの距離が156kmある場合)

- 1 **ARRIVE** **3** キーを押し、**到着時刻** を表示させます。

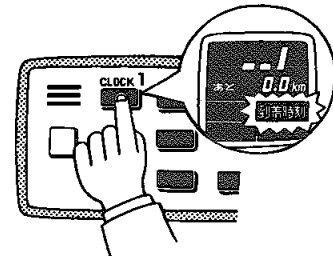


— — : — — の表示は、コンピューター内に、その表示項目のデータがセットされていない状態を示します。

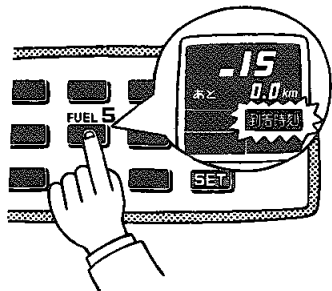
- 2 数字インプット・キーを押します。
— — — の表示は、数字インプット OK のサインです。



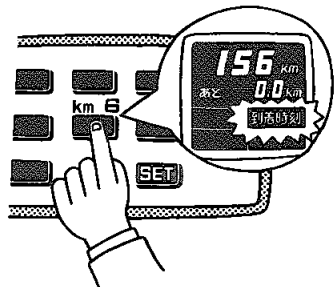
- 3 **CLOCK** **1** キーを押します。



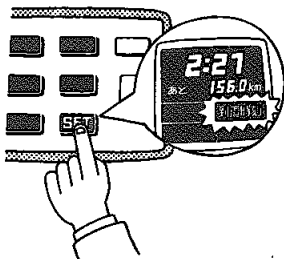
4 FUEL[5]キーを押します。



5 km[6]キーを押します。



6 SET ボタンを押すと、コンピューターが作動します。

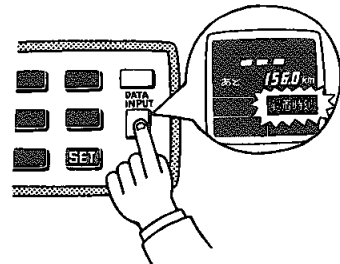


この場合は 2:27 に到着することを表示しています。

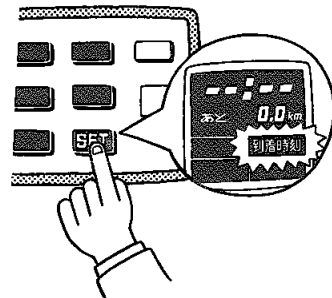
目的地までの距離は 999 km までセットできます。

<目的地までの距離を 0 にするとき>
— 途中で機能を解除する場合

- 1 ARRIVE[3]キーを押します。
- 2 数字インプット・キーを押します。

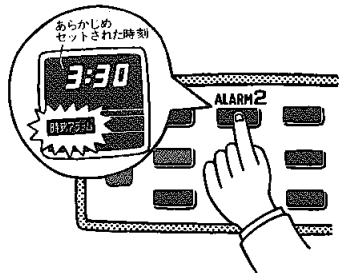


3 SET ボタンを押します。

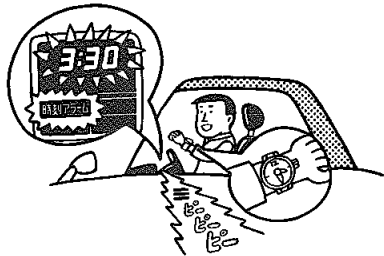


▶時刻アラームを利用するときは

- 1 ALARM[2]キーを押すと、あらかじめ覚えておきたい時間をセットしておくことができ、その時刻を表示します。



- 2 セットした時刻になると、他の項目を表示していても、時刻アラーム表示に自動的に切り替わり、約10秒間ブザーが鳴ります。



- 3 以降、時刻アラームを解除するかセットしなおさない限り、12時間ごとにアラームを続けます。

<時刻アラームのセット>

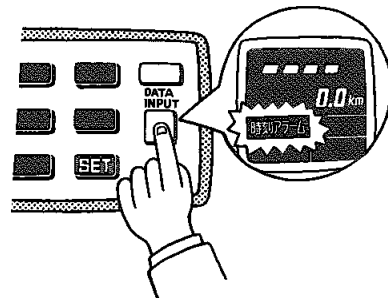
時刻アラームは、1:00～12:59の範囲でセットすることができます。

(例：3時30分をセットする場合)

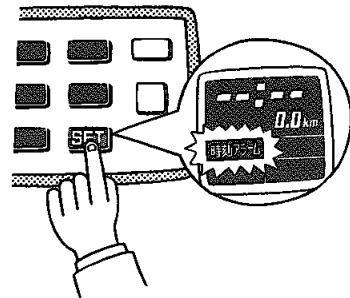
操作キー	メイン・ディスプレイ	表示項目表示盤
ALARM [2]	-- : --	時刻アラーム
DATA INPUT []	-- _	↑
ARRIVE [3]	-- _3	↑
[.]	3 : _	↑
ARRIVE [3]	3 : _3	↑
[0]	3 : 30	↑
[SET]	3 : 30	↑

<時刻アラームの解除>

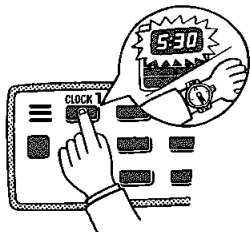
- 1 ALARM[2]キーを押します。
2 数字インプット・キーを押します。



- 3 [SET] ボタンを押します。



▶ 時計として利用するときは



CLOCK **1** キーを押します。

1:00～12:59までの12時間表示を行います。

<時刻修正のしかた>

(例: 11時33分を1時3分に修正する場合)

操作キー	メイン・ディスプレイ	表示項目表示盤
CLOCK 1	11:33	なし
DATA INPUT □	-- --	↑
CLOCK 1	-- _1	↑
:	1: _ _	↑
ARRIVE 3	1: _3	↑
[SET] ※	1:03	↑

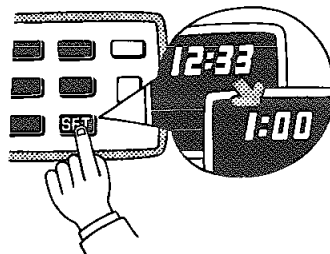
※時計は **[SET]** ボタンを押した時点

で、コロン(:)が点滅を始め、1時3分00秒から作動します。

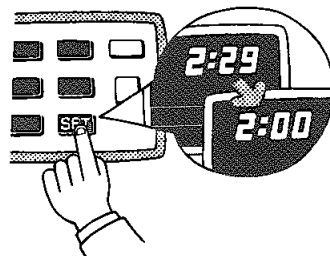
<時報合わせのしかた>

時報に合わせるときは、CLOCK **1** を押したあと **[SET]** ボタンを押します。

1. 30～59分は切り上げて表示されます。

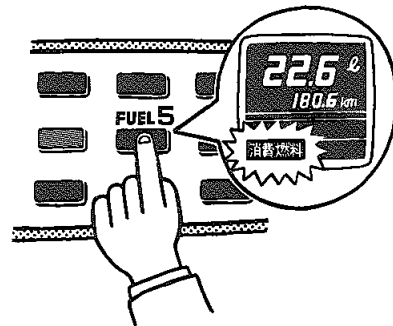


2. 0～29分は切り下げて表示されます。

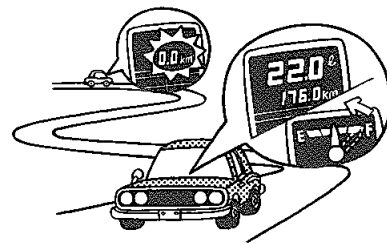


▶ 消費燃料量を知りたいときは

1 FUEL **5** キーを押します。



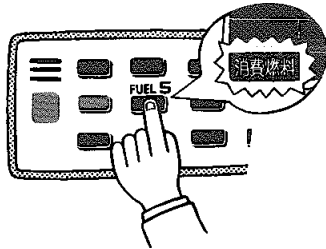
2 クルーズ・コンピューターの区間距離計を0にセットした時点から後の燃料消費量を表示します。



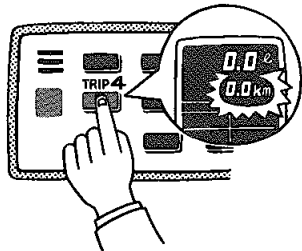
消費燃料の数値が表示されるのは、燃料を0.1ℓ以上消費した時点からです。

<区間距離計を0にもどすには>

- 1 FUEL[5]キーを押し、消費燃料を表示させます。

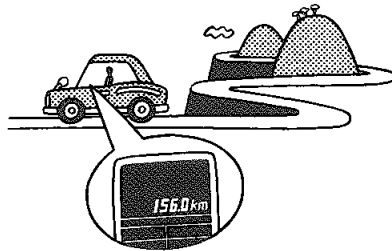


- 2 TRIP[4]キーを押します。



区間距離計を0にもどすと、同時に前回0にしてからの消費燃料の記憶も消えます。

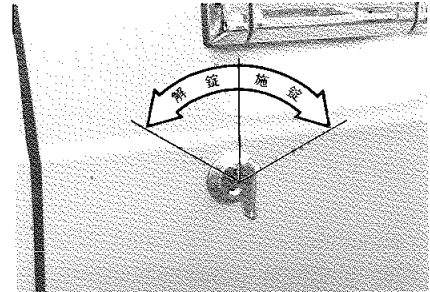
▶ 区間距離計として利用するときは



到着時刻 表示以外するとき、サブ・ディスプレイに積算距離が表示されます。

車体各部の開閉

■ フロント・ドア



前へ回すと施錠，うしろへ回すと解錠になります。

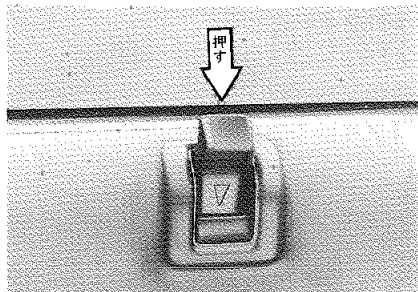
☆車からはなれる時はエンジンを切ってドアを施錠してください。

法的にも義務づけられています。

☆ドアをしめるときは確実にしめてください。

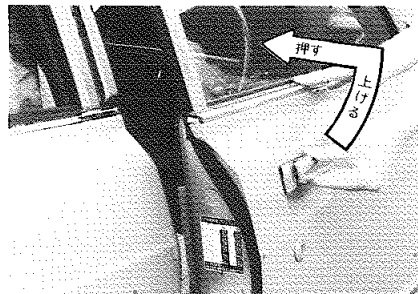
半ドアは危険です。

▶ 施錠するには
 <車内から>



施錠ボタンを押します。

<車外から>——キーを使用しないとき



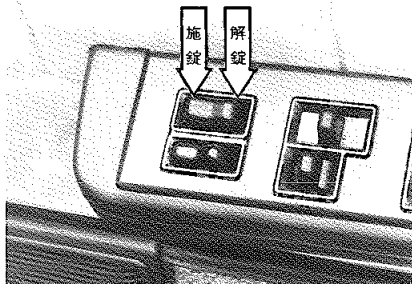
施錠ボタンを押し、ドア・ハンドルを引き上げたままドアをしめます。

■ リヤ・ドア

施錠ボタンを押し、ドアをしめると施錠できます。

■ 電磁式ドア施錠装置

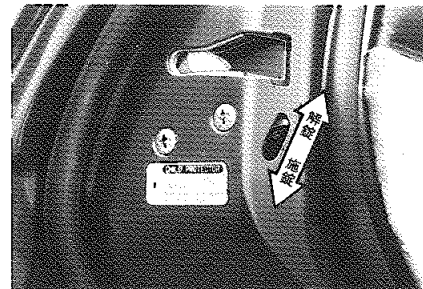
GLエクストラ, LG, グランデ車



1. 運転席側のドアにスイッチがついています。
2. スイッチのDOOR LOCK(施錠)側を押すと全ドアが施錠されます。
3. UN LOCK(解錠)側を押すと運転席以外のドアが解錠されます。運転席ドアは、ドア・レバーを引けば解錠されます。
4. スイッチを押し続けると作動しないことがあります。いったんスイッチをはなして再度押してください。

■ チャイルド・プロテクター

(安全施錠装置)

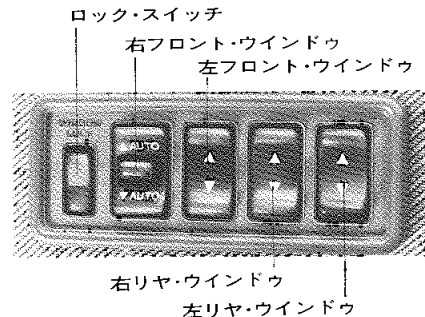


安全をはかるためにリヤ・ドアにはチャイルド・プロテクターがついています。お子様を乗せるときなどにご利用ください。

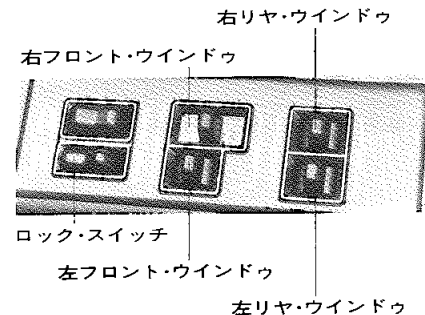
1. 施錠の位置にしてドアをとじると、施錠ボタンの位置(施錠または解錠)には関係なくドアは車内からはあきません。
2. ドアをひらく場合は、施錠ボタンを引き出したうえ、車外からドア・ハンドルを引きます。
3. 室内からあけたい場合は、施錠ボタンを引き出しドア・ガラスを下げ、窓から手を外に出しドア・ハンドルを引いてください。

■電動ウインドウ*

LGツーリング車, ワゴンのLE車



GLエクストラ, LG, グランデ車



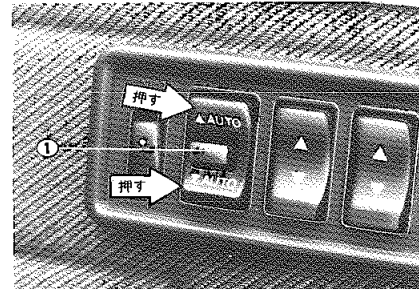
運転席側には、全ドアのウインドウ・ガラスを開閉できるスイッチが取り付けられています。

その他のドアにもそれぞれのウインドウ・ガラスを開閉できるスイッチがついています。

なお、運転席側スイッチについているロック・スイッチを「LOCK」にすると、運転席スイッチ以外のスイッチではウインドウ・ガラスの開閉はできません。

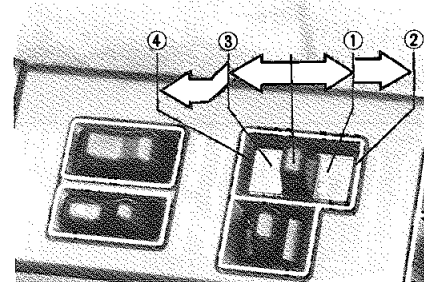
▶右フロント・ウインドウの開閉

LGツーリング車, ワゴンのLE車



上側のAUTOを押すと全閉, 下側のAUTOを押すと全開します。途中で止めたいときは、①のスイッチを逆方向に押してください。

GLエクストラ, LG, グランデ車



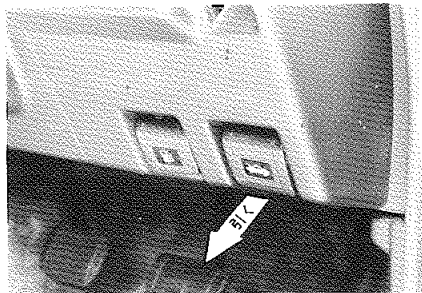
1. ①押している間下降します。
 2. ②自動で全開します。
 3. ③押している間上昇します。
 4. ③の位置でスイッチをいったん下に押し、④の位置まで動かすと自動で全閉します。
- 自動開閉を途中で止めるには、スイッチを③または①の位置にしてください。

- ★ウインドウの開閉は、エンジンがかかっているときに行なってください。
- ★しめるとき手などをはさまないように注意してください。
- ★運転席側スイッチと他のスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。

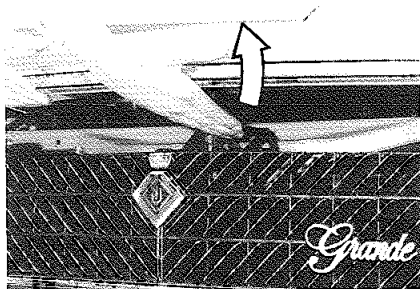
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

■ボンネット

1. 計器盤右下のレバーを引きます。



2. ボンネットのすき間に手を入れ、ボンネット・ロックをはずしてボンネットをいっぱいあけます。



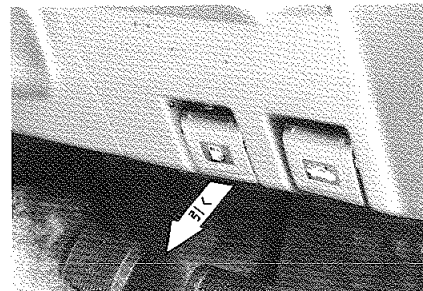
3. とじるときは、ボンネットを下げ、前端を押えつけ、しっかりロックしてください。



ボンネットが、半ロックのままで走行すると非常に危険です。確実にロックしていることを確かめてください。

■燃料タンク・キャップ

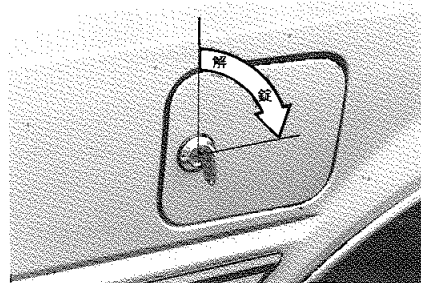
<車内から>— 燃料補給ロオプナーで
スタンダード車を除く

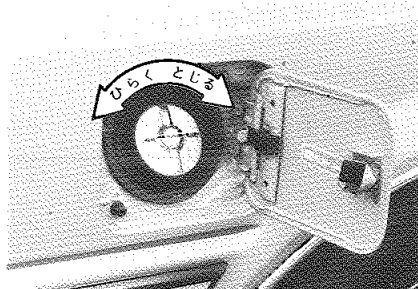


計器盤右下のレバーを引くとカバーがひらきます。

エンジン・キーをLOCKの位置にしてからレバーを引くようにしてください。

<車外から>— キーを使って

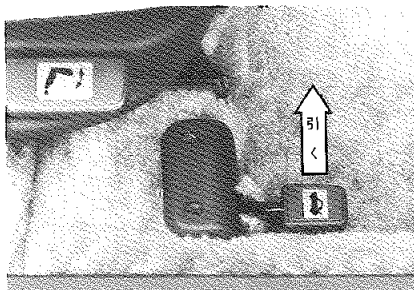




キーを右に回したまま手前に引き、燃料補給口のふたをあけます。キャップは左に回すとはずれます。
燃料補給のときは、必ずエンジンを停止してください。

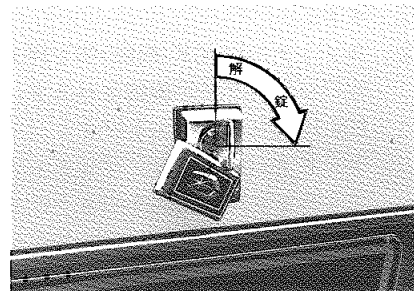
■トランク

＜車内から＞——トランク・オープナーで
スタンダード車を除く



運転席のシート右下にある、レバーを
引き上げてください。

＜車外から＞——キーを使って



キーを差し込み、右に回します。
サブ・キーは使用できません。
とじるときは、上から手で押えつけて

ロックしてください。

また、キーを差し込み左に回しておけば、トランク・オープナーではトランクをあけることができません。
キーをトランク内に置き忘れないようにしてください。

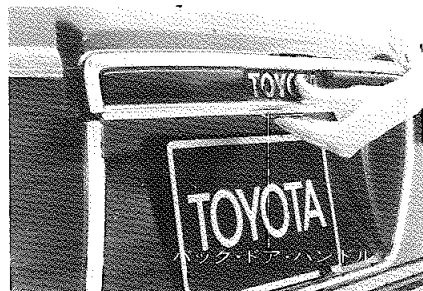
▶トランク灯

スタンダード、デラックス車を除く

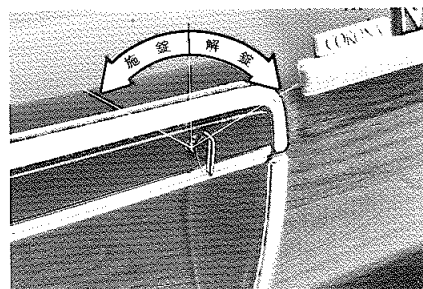
トランクをあけると点灯します。

■バック・ドア

ワゴン/バン車

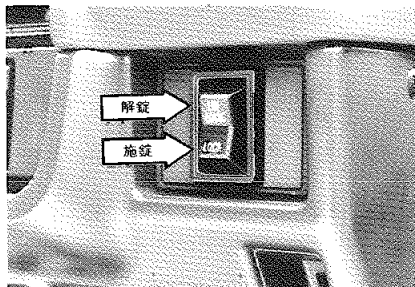


1. バック・ドア・ハンドルの内側を引き上げます。
2. ひらくと、バック・ドア灯がつかます。
3. とじるときは、バック・ドアをそのままおろし、上から押えつけます。



4. キーを差し込み、左へ回すと施錠できます。

▶ 電磁式バック・ドア施錠装置 *



1. 計器盤右側にスイッチがついています。
2. スイッチのLOCK(施錠)側を押すとバック・ドアが施錠されます。
3. UN LOCK(解錠)側を押すとバック・ドアが解錠され、バック・ドア・ハンドルの内側を引き上げると、バック・ドアをあけることができます。
4. スイッチを押し続けると作動しないことがあります。
いったんスイッチをはなして再度

押してください。

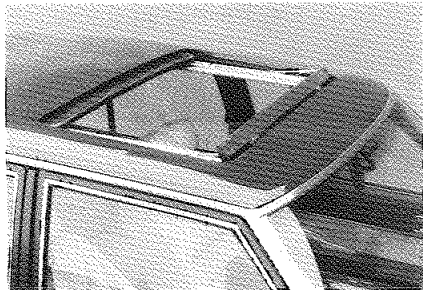
☆注意

1. 走行中にひらくと危険です。確実に施錠されていることを確かめてください。
2. 荷台には、人を乗せないでください。万一の場合、ケガをするおそれがあります。
3. バック・ドアは、いっぱい上に持ち上げて降下しないことを確認してください。
4. バック・ドアをしめるとき、他の人の手などをはさまないように注意してください。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

■サン・ルーフ *

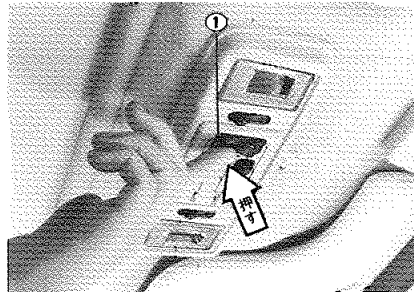
セダン車



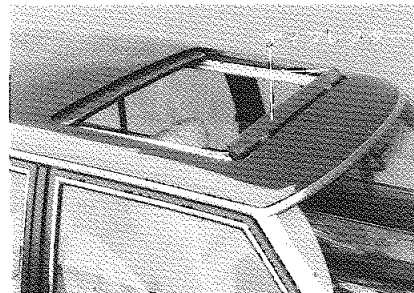
エンジン・スイッチがONのときフロント・スポット・ライトに付いている作動スイッチで開閉できます。万一、電動で動かない場合には手動でも操作することができます。

▶あけるときの

1. エンジン・スイッチをONにします。
2. ①のスイッチのOPEN側を押します。

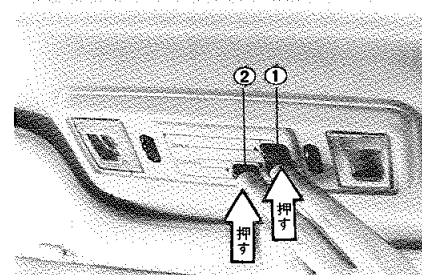


3. スイッチから手をはなすと作動は停止します。
4. サン・ルーフをあけると室内への風の巻き込みを防ぐディフレクター（整流板）が自動的に上がります。



▶とじるとき

1. エンジン・スイッチをONにします。
2. ②のスイッチを押したまま、①のスイッチのCLOSE側を押します。

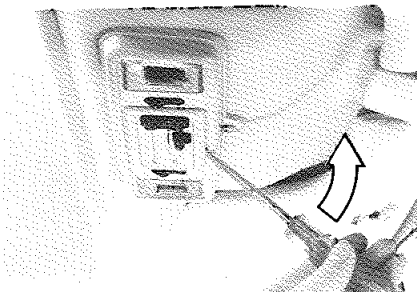


3. スイッチから手をはなすと作動は停止します。

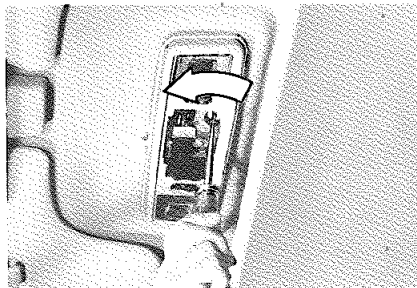
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

▶ スイッチを押してもサン・ルーフが作動しないとき

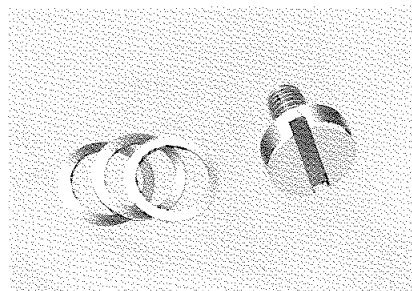
1. サン・ルーフ・スイッチのカバーを⊖ドライバーを使用して取りはずします。



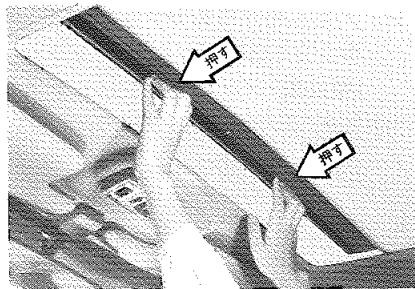
2. 駆動軸下端のネジを取りはずします。



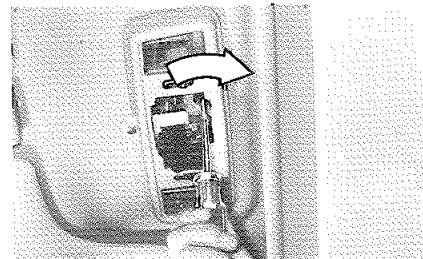
ネジを取りはずすときに、ワッシャーおよびシムを紛失しないようにしてください。



3. サン・ルーフを手でディフレクター付近まで動かします。



4. 全閉するときには、⊖ドライバーで駆動軸を矢印方向に回します。



1. サン・ルーフが全開、全閉したときは、スイッチから手をはなしてください。押し続けると故障の原因になります。
2. 走行中は危険ですから、開口部から頭や手などを出さないでください。
3. ルーフ開口部には腰をかけないでください。
4. 車からはなれるときは、サン・ルーフが完全にしまっていることを確認してください。
5. スイッチを操作するときは、サン・ルーフで手などをはさまないように十分注意してください。